

「抗アミロイド抗体薬治療を踏まえた認知症の人の介護家族等への支援の実態調査研究」におけるヒアリング調査

対象：各施設の実務担当者

1. 目的

各施設における抗アミロイド抗体治療の運用実態と課題を把握し、患者・家族向けアンケートや支援プログラム設計に反映する。

2. 方法

- ・形式：半構造化インタビュー形式（Zoom）
- ・記録：録音（同意を得た場合）＋要約メモ
- ・同意：冒頭に目的・匿名化・利用範囲を説明し、口頭同意を得る
- ・録音データは要約作成後、削除します。

3. 共通質問（全施設）

- ・治療導入からフォローアップまでの運用フロー（紹介～評価～導入～モニタリング～フォローアップ）
- ・受診導線やボトルネック（検査枠、MRI、費用説明等）
- ・患者・家族の不安や質問（効果、副作用〔ARIA など〕、費用、APOE 検査の意義）
- ・APOE 遺伝子検査の説明・同意の流れ、心理的配慮、遺伝子カウンセリングについて
- ・APOE 遺伝子検査実施の方法と実施割合
- ・治療枠を増やす工夫
- ・治療継続／中止、フォローアップの判断基準や課題について
- ・適応外患者への代替支援（情報提供、治験紹介、生活指導等）
- ・地域資源（認知症カフェ、包括支援センター等）との連携や活用状況
- ・その他、本研究アンケートで取り入れるべき設問案

4. 施設別の質問内容

筑波大学（MCI デイケア）：1. MCI 段階での抗体医薬の説明について、2. デイケア利用者間で治療に関する話題など情報交換の実態について、3. 非適応時の生活指導やリハ支援はどうしているか、など。

東京都健康長寿医療センター（DMT 外来）：1. どのような紹介経路か、2. 照会医に望むこと、3. 治療適応外となる割合（外来受診時、アミロイド病理の検査時点など）、4. 都市部の診療連携の課題、5. 高額療養費制度など説明時の負担や課題について、など。

三重大学（脳の健康スクリーニング）：1. スクリーニング事業から専門外来への導線はスムーズか、2. スクリーニング時に抗アミロイド抗体薬の相談があるか、など。

神戸大学（地域コホート）：1. 地域特性（交通・医療資源密度）が治療選択や通院にどう影響しているか、2. コホート参加者が抗体医薬の情報をどのように得ているか、3. コホート情報から見えてきた「通院困難」「独居」「介護者不在」などの特徴について、など。

5. その他、自由意見収集